



Heilo! from LONDON

21.Feb.2024 No.12

五味 公人



皆さん、お元気ですか？ ロンドンはずいぶん日が長くなって、朝7時の出勤時には、ほんの少しですが明るくなってきました。そして午後5時ごろ暗くなるようになりました。これが夏至のころになると、朝3～4時に日がのぼり、夜9～10時に沈むようになります。これからどんどん日が長くなりますが、相変わらず曇り空が基本で、しばらく肌寒いでしょう。



← HALLOW SCHOOL の SCHOOL CHURCH

さて先日、Eaton 校などと並ぶ超名門校「HALLOW SCHOOL」の見学に行ってきました。その歴史は古く、エリザベス1世が創立を許可したのが、1572年、織田信長が比叡山延暦寺を焼打ちした翌年のことです。歴史ある建物の壁には、その

エリザベス1世の像

→
←奥に建つ**オールドスクール**には、創立当時の教室が残っていました。ハリーポッターの授業風景も撮影された、狭くて薄暗い教室に



入っていくと、こい茶色の壁板に、卒業の際に生徒が彫っていった名前が、たくさんありました。その中には、あのチャーチル元首相のものもあるのだそうですが、いかんせんたくさん彫ってあるので、ガイドさんも確かこの辺りだと言うだけで、はっきりとは分かりませんでした。しかし他にも劇作家のシェリダン、郵便ポスト

の創始者のタルボット、元首相のピール、そしてあの有名な俳優、ベネディクト・カンバーバッチも、ここの卒業生なのです。ただ、壁一面の名前から彼らの名前を探すのは至難の業です…。

卒業生の中の第1次・第2次世界大戦の犠牲者を吊っているメモリアルホールに入っていくと、大きなスピーチルームがあります。

スピーチルーム→

すり鉢の底のようなその部屋では、毎週月曜日の朝、全校生徒が集まり、校長先生のお話を聞くのだそうです。階段状の生徒席を上った先の壁にはこの学校が輩出した7人の首相の額が飾ってありました。もちろんチャーチルのもありましたが、ヨルダン国王の息子やインドのネール元首相のものもありました。その部屋の威厳ある様子に、「おお、ここに未来の世界的リーダーが集うのだ」と思い、ただただ見とれるのみでした。壁のステンドグラスも見事でしたよ。なお、階下にへこんでいる部分に板をわたして舞台とし、そこでシェークスピアの劇を上演するのも、ここの定番だそうです。きっと「本物」を観るのでしょうね。ここには現在13歳～18歳までの男子生徒が約1,000人世界中から集まり、11ある寮に分かれて生活しているのだそうです。そしてその寮長は特別な存在として、専用の会議室まであるのです。そこで学生の自治、そしてHALLOW SCHOOL 精神について、話し合っているのでしょう。すごいですね！ なお、気になる学費ですが、年間£16,850（約320万円）だそうです。そこには食費、授業料、教科書、文具費、洗濯代が含まれていますが、その他に保証金として£3,000（約£57万円）払い、さらに補習授業や実技講習等、追加授業料が必要な場合には、追加料金がかかるのだそうです。ちなみに見学自体もビジネス化しており、一人£10（約1,900円）で、10人以上の団体を受け付けています。



← HALLOW SCHOOL から眺めた夕日

ロンドン郊外の小高い丘の上にあるそこは、まさに世界を引っ張るエリート集団の養成所です。そこを見学できたことは、イギリスに来てよかったと感じることの一つになりました。

